

第11回優秀論文賞選考理由

優秀論文賞選考委員会 大橋英夫

改革開放後、中国の農業部門は、先行的な改革により、生産性が大幅に上昇すると同時に、非農業部門の就業機会が飛躍的に拡大した。しかし就業・教育などの機会の不平等や社会経済的環境の地域格差が、農家間の所得格差の拡大を助長しているのも事実である。本論文は、内陸地区である四川省の農村をケースとして取り上げ、「農村工業化は農家所得の不平等の重要な要因である」との仮説のもとに、農家間の所得格差を規定する諸要因、なかでも農村工業化と関連する農村地域の就業機会及び郷鎮企業労働生産性の地域格差に焦点を当てて、定量的な分析がなされている。

所得格差の決定要因を探るにあたり、変数の導出、先行文献との関係、利用するデータの特徴も丁寧に記述されており、決定要因と所得とを回帰させることで所得格差の要因を分解し、農家の属する地域の農業工業化が最大要因であることを実証している。全体として、個票データを利用した労作であり、手堅い実証作業を通して、明快な結論を導いていると評価できる。

ただし、選考過程においては、次のような意見があったことを付記しておきたい。本論文は経済学の専門誌でも掲載される可能性があるかと評価できるが、地域研究分野の学術誌である『アジア研究』においては、仮説の検証作業にとどまらず、たとえば、四川省の実情に照らし合わせて、より現実的に問題を掘り下げるような作業がなされるべきである。このような作業を通して、ユニークなインプリケーションを打ち出すことができれば、本論文に対してより高い評価が期待できよう。

受賞の言葉

大阪産業経済リサーチセンター客員研究員 孟 哲男

この度は、アジア政経学会第11回優秀論文賞を授与して頂き大変光栄に思います。荣誉ある学会賞を頂いたことは今後の研究人生においても大きな励みになります。選考委員長ならびに選考委員会の先生方に心よりお礼申し上げます。投稿の査読に当たって頂いたレフェリー、編集担当者にも感謝します。数多くの有益なコメントを頂いたお陰で、拙稿の完成度が上がったのだと思います。

拙稿は博士課程において最後に執筆した論文を、大幅に加筆修正したものであります。それまでも、とくに中国農村部の所得格差に焦点をあててその規定因を研究してまいりました。中国では、農家世帯間のジニ係数は都市世帯間のそれを上回り、農村部にはまだ多くの貧しい農家が存在しているのです。そこで、農村の貧富格差を決める要因は何か、貧しい農家が豊かになれる条件は何かを明らかにしようとするこの研究に取り組んできました。

農家世帯間に所得格差は、農業収入や賃金所得といった所得の構成要素の分布状況によって決定されるのですが、背景には、生産要素の所有状況や家族構成員の教育水準などの差異、自然条件、就業機会といった社会経済的環境の地域格差があります。拙稿では、こうした要因を農家家計モデルを参考に特定したうえで、各要因が格差に対してそれぞれどの程度貢献しているかを、内陸部に位置する四川省を取り上げ定量分析し、農村工業化の地域格差、より具体的には就業機会、郷鎮企業の労働生産性の違いが、農家所得の不平等度の重要な要因であることを明らかにしました。

こうした分析結果から、内陸農村地域において、工業化が遅れた県、鎮への投資拡大を促進することは、そうした地域の所得格差を是正する有力な手段になりうると考えられます。しかしながら、近年では内陸地域に進出する企業が増え、成都市やその周辺地域などで工業園區の建設が進められています。そうした工業発展地域への労働移動がスムーズに行われなければ、農村地域間の所得格差はいっそう拡大すると予測されます。ですから、農地流動化政策など農村労働力の移動を促進する制度政策はとくに重要だと思われま。

最後になりましたが、これまでご支援くださった先生方々にあらためて敬意を表したいと思います。今後ともこうした格差の問題、発展途上地域の開発問題にかかわる研究に取り組んでいく所存ですので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。